

大正二年六月五日發行

# 婦人と子ども

第十三卷  
第六號

フレールベル會

第十三卷第六號目次

兒童に對する觀念の變遷

吉田 熊次

教育系統上幼稚園の保つべき地位

横山 榮次

英文學にあらはれたる子供(六)

岡田 みつ

『トム』と『マイギー』(つゞき)

手工應用玩具の造り方

藤 五代筈

雜 錄

附 錄

美學講話(第六回)

菅原 教造

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共六拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會免諸般の御用務は左の如く願ひます  
(庶務上保薦紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄  
谷八七八倉橋惣三宛

大正二年六月五日發行  
大正二年六月四日印刷

編輯兼發行者 東京府豊多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八  
倉 橋 惣 三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登  
平 井

印刷所 東京市本所區番場町四番地  
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレイベル會

# 婦人と子ども

第十三卷 第六號

## 兒童に對する觀念の變遷

—(フレーベル會第十八回總會に於ける講演)—

### △此問題を選びたる理由

私の演題は先程御紹介が御座いました通り、兒童に對する觀念の變遷といふのであります。何故かういふ題に就てお話をしやうと云ふ氣になつたかと申しますと、普通私共の感じからすれば、親としては子供を可愛がり、子供としては親を慕ふのは自然の人情であるから、昔から其通りだらうと思はれるのであるが、歴史上の事實としては左様に簡單にはなつて居らないのである。中には隨

東京女子高等師範  
學校教授文學博士

吉 田 熊 次

分殘酷で、身震ひの爲るやうな取扱を兒童に對してなして居つた時代がある。それから又兒童に對して憐むべき程思慮に乏しい取扱をして居つた時代もある。そこで兒童に對する觀念は昔からどう變つて來たかと云ふことを考へるのは、お互が兒童に對する觀念を正當にもつ上に多少裨益あることと思ふのであります。

### △觀念變遷の三時期

古代から今日までの兒童に對する觀念の變遷を

極く大體に就て分けてみると三つの時期に分つことが出来る。これは文明國と呼ばれて居る民族の間に於けるもので、野蠻人に就ては暫くこの分類に入れないこととする。

第一期と云つても年代をはつきり申す事は困難であるが、大體西曆紀元前二三世紀までの頃を指すのである。此の時代は自然的社會組織が存在し、それに基いて起つて居つた兒童に對する觀念である。

第二期 これも年代ははつきりしないが、大體紀元前二三世紀から十九世紀の末頃に亘つて居る。

第三期 十九世紀以後に起つた新しい考である。

### △太古兒童戮殺の諸原因

第一期の時代に就て申すと、其の頃の兒童に對する考や取扱は恐ろしいやうなことが多い。前に

も申したやうに、親が子を大事にするのはあたりまへのやうであるが、此の時代にあつては、親は子供に對して慘酷であつた。道徳觀念の發達の歴史によると、古い昔では親が子供を殺すは何でもない事であつた。斯る風習は今日でも野蠻の民族間には見る事實であるが、今日文明國と云はれて居る諸民族の間にも昔は公々然と行はれたのである。

兒童戮殺に就ても種々の原因があるが、その一つは宗教的觀念に基くものである。即ち神に捧げると云ふ意味に於て子供を殺したのである。その一例はフィニシアの民族の間に行はれて居つたモロツホと云ふ神に捧げるために子供を殺すことである。モロツホと云ふ神は昔は太陽の光を祭つたのであつた。フィニシア、アラビヤ、小亞細亞の諸地方は、太陽の光が非常に強いから、この地方の人民は太陽の光は強いもの、物を壞すものとして恐れた。又物を清めるものとした。後になつて

それが變つてモロッホを戦争の神とするやうになつた。そこで此の神の怒に觸れないやうに供へ物をしたり、此の神の保護を受けるために供へ物をする習慣が起つて、種々の犠牲を供することになつた。最初は戦争に勝つと此の神に御禮を申す意味で、擒にした敵を捧げたが、後には神の御機嫌を伺ふために最も大切な子供を殺して捧げることになつたのである。これは迷信的の兒童戮殺で、こんなことは原始的社會には尠くなかつた。又其の殺し方も何故にそんな慘酷な殺し方をしたか、今日から理解が出来ないやうなことをして居る。それは金屬製の内部が空に作られてある捧に子供を縛りつけ、その中にて火を焚いて子供を炙り殺すのである。斯る風習はカルセージにも行はれたといふことである。フィニシア人と云へば歐羅巴文學の製作された國で、歐洲の文明に貢獻する所の少くなかつた民族であるが、その民族に此の野蛮の風が行はれたといふことは夢の如く思はれる

事實である。又波斯等に於ても子供を神に供へる風習があつた。

波斯に於ても初めは斯る風習が行はれた。モハメット教が盛になつてから、兒童を戮殺してはならぬと云ふ規定を設けて戮殺を禁止した。猶太に於ても猶太教が兒童の戮殺を禁止した。これは後に兒童尊敬の風が起る源になつたのであるが、猶太教ではメシアスの再生を信じたから、メシアスがいつ生れて居るか知れないから、何の子供でも殺してはならぬこととしたのである。此等は宗教心が兒童の戮殺を禁じた例である。

兒童戮殺の他の原因は社會的事情に基くものである。其の社會的事情の主なるものは經濟的事情である。今日に於ても子供を育てることは容易ではない。今日の歐羅巴人は子供を重荷と考へて居るが、太古に於ても子供を育てることは容易ではなかつたのである。昔は生活も簡單であつたが、また子供を育てる資料を得るのが容易でなかつ

た。太古であればある程、子供を育てるに必要な衣食の材料を得るに困難であつた。米國のバツトンと云ふ經濟學者が面白いことを云つて居る。今日は苦痛本位の經濟である。どうしたらば苦痛を避けられるかといふのが經濟の根本である。昔は快樂本位の經濟であつた。どうしたらば快樂を多く得られるかといふのが經濟の根本であつた。と斯様にいふて居る。なる程今日は人間が殖え、社會が複雑になつて、生存競争が劇しくなつたが、極大昔の社會に於ける生活は樂であつたかも知れぬ。自然の果物は野山に滿ち、至る處に鳥獸が群をなして人間が獲るに任せてあるやうな時代もあつたのであらう。さういふ時代ならばバツテン氏のやうな説も立ち得るのであるが、歴史に傳つて居る太古の時代にあつてはもうそんな氣樂な境涯が通り越してしまつて、やはり生活の困難があつた。或る論者は太古の時代には一夫一婦であつたといふ事實を斷定するに當り、一人の男子が多く

の婦人を養ふことは當時の經濟事情が許さなかつたと云つて居る。兎に角生活の困難は太古からあつたことは確かで、子を殺すといふこともそれに基いて居る場合も多かつた。モハメット教の經典の中には明らかにそれが示されてある。即ち、貧困に陥つても子を殺してはならぬ、神は大人の生存を欲する如くに、子供の生存を欲するのであると戒めて居る。要するに兒童殺戮といふ慘酷なる所業が經濟問題に聯關して起つて居るのである。此時代に於ては子を殺すことを以て罪惡と思つて居ない、虫螻を殺すと同然に思つて居たのである。今日の所謂文明諸國の昔の狀態を考へて見ても何れも第一期の時代に於ては兒童を尊敬する風は存して居らなかつたと思はれる。

### △希臘羅馬ゲルマン 古代の風習

希臘の古代に就て考へると、希臘人は兒童に對

して冷酷であつた。生れて五日目に祝ひ事をするその時に父親が其の子を見て氣に入れば自分の子とし、氣に入らなければ殺すのである。斯る風習の源は何處から來たかはわからない。又羅馬及びゲルマニア即ち今の獨逸民族にも子が生れると地上に置き、父親はそれを氣に入れば抱き上げる。それが子供を養つてやるといふ印になる。若し抱き上げずに其のまゝ去つてしまへば其の子は育でないといふ印になる。想像を逞しくすれば斯る風習は羅馬、希臘、ゲルマニアと分れない以前のアーリア民族の風かも知れない、又は或る一國の風が他に傳はつたのかも知らない。

斯くの如く其の子を父が一目みて養ふか、養はないかを定めるのは何故であるかといふと、これはその子供が健全に生れて居るかどうかが、若しや不具ではないか、果して育てるに價する子供であるか、かういふ鑑定をするために見るのであるとも考へられる。又古代の社會には前に述べたやう

に生活の困難があり、種族の繁榮といふことが主であつたから、其の子は種族のため役立つものであるか、己が族の一人とする價値あるものであるかを考へて生殺を決したとも見られる。つまり民族の必要に由つて取捨撰擇せられたので、女の子が多く捨てられたのは此る理由に基くものと思はれる。

斯くの如きは希臘一般の風習であつたが、セーベに於ては子を殺すことを禁じてあつた。若しも其の子を育てる力がなければ役所にもつてこいといふ命令を出した、これに由つても民族本位の思想の行はれて居たことがわかるので、當時セーベに於ては民族を維持するだけの人數がなかつたために、子を殺すことを禁じたのである。スパルタでは子が生れると其子を生かして置くか、殺してしまうかと云ふ檢定があつた。檢定はスパルタの長老がするので、其の子がスパルタ人としての名譽を擔ふ價値があるかどうかを見て定めるのであ

る。若しもその價值がないとなるとタゲトスと云ふ山の麓に棄てたといふ。或歴史家の説では棄てるといふのは殺すのではなく、スバルタ國の自由民族としての生存を許さないといふことで、その地方の民家に預けて育てたのであるといふ解釋を下して居る。其の理由は別としてスバルタには子を捨てるといふ風は確かにあつた。それは貧困の爲めではなく、氣に入らないから育てないのである。

貧困の爲めでない證據は、子を捨てる時には箱に入れ、指環、胸掛等の貴重品、裝飾品を添へて棄てる。何故にかくするかと云ふと、若し神が捨てた子供を再び生かそうとして、誰れかに發見させる時に何か目印がなくてはならないから、それで裝飾品を添へて棄てるといふ解釋もある。

今一つは近代的の解釋で其子に添へてあるものが欲しさに、其の子を救ふて育てる人もあらうからといふので、貴重品をつけて置くといふのである。或はまた其子が其の儘死んだ場合にそれを葬

つて貰ふ禮として物品を添へるといふ解釋もある、孰れにせよ希臘では子供を勝手氣儘に取扱ふ風習があつたことがわかる。子を棄てるか棄てないかの判断は父親がきめた。古代希臘に於ては父權が強かつたものである。尤も希臘ではソロンは既に孤兒院の制度を設け、廿才迄の子を預かつて育てることを定めて居る。

羅馬にはバトリア・ポテスタスと云つて、父權が非常に強かつた。父は子供のみならず家族の人々の生殺與奪の權をもつて居た。子が生れると前に述べたやうに父親が氣に入れば育てることにする風習であつた、殊に羅馬では子供の幼少な時ばかりでなく、成長してからでも、親權をもつて奴隸に賣ることもあつた。羅馬に於て子供を殺すことが罪とされるやうになつたのは帝政時代、即ち紀元少し前で、子供を棄てゝはならぬといふ法律の出來たの紀元後三世紀の頃である。

ゲルマン民族、即ち今の獨逸民族の古代に於て



も子供の生殺は専ら父親の意志に由つて定まつた。やはり子供が生れると地上に置いて父親がそれを育てるか否かを決定したことは前に述べた通りである。そして此の民族にあつては生れてから一滴の乳なり、蜂蜜なりを飲ませれば、生命を興へたといふことになるので、其の後は殺してはならなかつた。即ち生殺を生れた時に決定するのである。子が生れると直ちに水で洗ふ。これが後世の洗禮の式に混じて残つたといふのである。紀元後一世紀頃羅馬の歴史家タシトスが書いた『ゲルマニア』と云ふ書物の中に、ゲルマニア人は子を殺すことはないと賞めて居るが、これは旅行者に有勝ちの、一部分を見て全體を判斷したものであるか又は當時羅馬では浮華の風俗行はれ、子供を育てることなどを顧みない女が多かつたので態とそういふことを書いたのであるか、何れにしてもゲルマン民族にても子供を尊敬することはなかつた。

以上の如く、第一期の時代に於ける兒童に對する觀念は、今日文明國と云はれる國々に於ても、極めて酷薄なものであつた。

### △子供を親の壓迫から

#### 救ひたる基督教

然らば何時頃、如何なる考によつて兒童を尊敬し、兒童も大人と同じく人間の一人であるといふ觀念が湧いて來たのであらうか。それに二つの原因があると思ふ。その一つは哲學上の思想に基くもの、他の一つは宗教上の思想に基くものである。兒童に對する宗教上の思想は先にも申したやうに、猶太教にもその萌芽が見えて居る。即ち猶太教はメシアスの再生を信ずることから子供を殺さなかつた。その考から子供を重んずるに至つた。基督教になるとその考が一層進んで、神の子として、子供も大人も等しく犯すべからざるものとした。ウエスタマーク氏の『道德の起原及び發達』といふ

書物に、基督教の思想は子供を親の壓迫から免れしむることに非常に力があつたと書いてある。その理由は基督教は新しい宗教であるから、従来の習慣を打破して、その教を信じさせることが必要であつた。若しも父がその教を信じない場合には、子供は父の教に服することが出来ない。さういふ時には神に對する信仰が最高の力をもつて居るのであるから、父親の權を以て個人の信念を束縛してはならないと説くのである。併し基督教は親子の關係を無視しては居ない。パウロの云つたことでもそれは明らかである。たゞ神の教に背く場合には親の云ふこと、雖も諾かないでよいとして、子供の思想の獨立を認めたのである。それに由つて第一期の時代に於けるが如く子供に對して手荒いことをしない觀念を傳播したのは確かなる事實である。併しながら基督教の根本教義を決定する迄の時期、即ち哲學史に教父時代と云はれて居る時代の神學者が、子供を殺すことを禁止するに力

を添へたことを忘れてはならない。

### △兒童の人格を認め

#### しめたる哲學思想

第二期の時代に於ける兒童に對する觀念即ち兒童の人格を認むるに至つた思想は哲學的原因によるとが多いと思はれる。歐羅巴に於ける人格の自覺、個人の權利の自覺は宗教的原因よりも哲學的原因によると思はれるのである。ソクラテスから、アリストテレスの出た頃は所謂希臘のクラシクの時代であるが、それ以後の哲學は全く別種の傾向を有つて來た。其の時代の哲學のうち、殊に勢力があつたのはストアック哲學である。これは當時の必要から來たのであらうが、明らかに個人の自覺が高まつて來て居る。ストアック哲學は一種の人生觀をもつて居た。個人の理性を推しつめてみると、宇宙の根本となつて居る宇宙精神と連絡のあるものである。個人精神のうちに宇宙が小

さくなつて現はれて居るのである。故に子供でも大人でも理性をもつて居る以上は一様に尊敬せらるべきものである。と斯様に考へた。ソクラテスも、アリストテレスも共に偉い哲學者であつたが、個人の人格は未だ十分に認めなかつた。彼等は奴隸を公然認め、これを正當のこととしたのである。その頃は希臘の國家が健全に榮えて、國民を保護して居つたので、住民は自分等の社會組織に満足し奴隸などの人格を認めなかつた。然るに希臘が滅び、羅馬が世界的になり過ぎて住民の監督保護が完全に届かないやうになつて、學問ある人々は始めて自分等はどうか行つて行くのか、何に依つて人生を完うすべきかを考へるやうになつた。かくして自己の内心に反省し、自分自己の一生を救ふべしとの觀念を生じ、所謂個人の自覺が高まつた。此の思想が羅馬に入り、羅馬固有の團體思想を個人主義に變じた。此迄は家長を主人として仕へたのが、其の後は家族の人々が自分自身を

絶對の主と考へるやうになつた。これは教育史にも見る通り紀元前三世紀頃の羅馬は希臘の哲學者を家庭教師に聘して居つたから、それ等の學者達に由つて希臘末期の思想が傳はつたのである。

それで羅馬に於ては紀元前一世紀頃から一般に若い者が跋扈し始め、子供が我儘になつた。その一例として紀元前百九十八年に作られたブラウエトウスの喜劇バツキデスの中に、此の時代の羅馬の家庭に於ける媿が違つて來たことが書いてある。それに依ると昔は子供が一人前の市民權を與へられる迄、即ち廿歳頃迄は教師の命には絶對に服従したものである。處が近頃は、七歳になるかならないかの子供が腕白をして困る、若し子供が悪い事をしたとて、教師が子供の體に手でも觸れると、子供は怒り出して近處にある椅子だの、卓子だのを投げ付ける。教師が怒つて其子の父親に告げると、父親は子供に向つてお前は偉い子供だ、誰れでもお前の身體に手を下すものがあるならば、お前は

自分を防衛するが當り前である。と褒めて、教師をば却つて叱りつける。お前は我が子供の身體に手を觸れてはいかぬ。俺の子供は奴隸のやうに他人の爲る通りになつて居ることは出来ない。お前がそんなことをすれば子供は又仕返しをするのは當然だと教師を叱る。斯様に子供は教師に抵抗つても褒められるやうになつたのである。

子供に體罰を加へるは悪いといふ思想が芽を出したのも此時代からである。即ち羅馬の帝政時代の頃からである。それに由つて見ても子供が自由を得るやうになつたのは基督教が歐羅巴に入る前であつたことがわかる。婦人が自由の權利を得るやうになつたのも基督教以前のことで、やはり希臘末期の哲學思想の影響が重なる原因である。

### △心身健全の兒童を要求

するユーゼニツクス

十九世紀以後に起つた進化論、經濟論は或る意

味から兒童を尊敬する念を高めたが、十八世紀の末に起つたマルサスの人口論は、人口が殖えては困るといふことから人口制限論になつた。ハリエト・マルチノーも同じ説を主張した。最近にガルトンに由つて説かれた民族改善説即ちユーゼニツクスから、また違つた考が現はれて來た。之れ等の人々には進化論を基礎として民族の繁榮を主とする點に於ては其通りである。民族の繁榮に役立つたぬ人口は制限する必要があるから、人口制限論も起る。又民族を改善するためには、健全なる精神と身體とを有たなければならぬから、民族改善説が起る。民族改善説からすると、心身の健全でないものは存在する理由がないことになるのである。併しながらユーゼニツクスは、既に生存するものを殺すといふのではない。却て心身の健全でないものは子孫を作り出さないやうにするがよいとするのである。此の思想を受けてエレンケイは子供は兩親を撰擇する權利があると云ふたのであ

る。即ち身體精神の弱いものゝ子とならないだけの権利が子供にあるといふのである。此の考は決して兒童を輕蔑するのではない。エレンケーの著書に『廿世紀は兒童の世界』といふ名に由つてもこのことは知られる。ケーは切りに『時代の神聖』といふことを云ふて居るので、人類社會全般の尊敬を主として居る。これは一個一個の兒童に重きを置くと云ふ考からすれば復古的であつて全體に重きを置くのである。

### △最も進歩したる態度

に至らねばならぬ

斯様に古代から現今に至るまでの兒童に對する觀念が變つて居るが、その中我等の特に注目すべきことは、兒童を神聖なるものとし、尊敬すべきものとする思想である。此る思想は第二期と第三期とに共通のものである。これは兒童に對する觀念の進歩を示す目標である。第一期に於ては兒童を

私の所有としたから尊敬の念がない。氣に入れば育てるが、氣に入らなければ殺してしまふ、必要があれば賣り飛ばしてもかまはぬと云のであつた。第二期になつて兒童の人格を認めたら、兒童を虐待してはならぬ。兒童に對しても遠慮がなくてはならぬと考ふる様にはなつたが、特に兒童を神聖視せねばならぬといふ思想には達して居らぬ。第三期に至つては兒童を一個の私の所有物でないとするのは勿論、又兒童の人格を認めるばかりではなく、兒童を時代の共同所有で在とした。即ち民族の一時代それ自身が神聖の者であるが、それを受け嗣いで行くもの、即ち第二の時代を形成するのは兒童であるから、兒童はそれ自身神聖であり、それ自身尊敬すべきものとの觀念が起つた。これは最も尊ぶべき思想である。兒童は時代を進歩させて行く客觀的の價値を有して居る時代の寶、民族の維持者である。此る意味を認むるならば、自分の子供でも、人の子供でも決して玩具視するこ

とは出来ない。獨りこれを虐待すべからざるのみならず、又これを甘やかして孱弱なる訓練なき者としてはならぬ。兒童に對しては、己が子たる人の子たるを問はず、常に恐懼して自分の仕付が適當でなかつたり、教育法を誤つたりして、時代の寶を毀けぬやうにと考へなければならぬ。我國

の現時の人の父母たる人々は果して何の種の觀念を以て兒童に對して居るかと云ふことは私が申し上げるよりも皆さんの判斷に御任せたいと思ひます。要するに兒童に對する尊敬の念が起つて、始めて兒童に對する觀念の晩近の進歩に應ずる所以と私は考ふるのであります。

## 教育系統上幼稚園の保つべき地位

——(フレイベル會第十八回總會に於ける講演)——

東京女子高等師範學校教授  
文部省視學官

榎 山 榮 次

### △曖昧なる地位にあ

#### る幼稚園

今日此の會に出席致しまして皆様にお話を致す機会を得ました事は私の光榮に存する所でありませぬ。私のお話は唯今御紹介になりましたやうに、

ります。私の考は或は間違つて居るかも知れませんが、私の觀る所では、幼稚園の今日教育系統上に保つて居る地位が甚だ曖昧で、そして其の地位の曖昧であることは即ち幼稚園の充分に發展しない主なる原因となつて居るのではないかと思ふのであります。

『教育系統上幼稚園の保つべき地位』といふのであ

明治四十三年の文部省の統計に依て見ると、我

全國の幼稚園の數は四百七十五、これを尋常小學校の二萬五千二百七十五に比べてみると、百に對する一、八の割合に當る。そして其幼兒の數は三萬八千二百二十二、これを尋常小學校の兒童數六百三十二萬九千八百六十四人に比べて見みると、千人に付六人の割合になつて居ります。併しながら幼稚園の年限は三ヶ年、尋常小學校の修業年限は六ヶ年であるから、尋常小學校の兒童數を二に分けて比べると、割合はもつとよくなつて、百に對する一に相當すると思ひます。即ち尋常小學校に入學する兒童百人のうち、一人の兒童が幼稚園の教育を受けて居ることになる。斯様な有様であるから我國の幼稚園教育は決して盛であると申すことは出来ません。外國の幼稚園に關しては近い統計を知てをりませんが、幼稚園教育が長足の進歩をしたと稱せられてをる北米合衆國は千九百二一年の調べによると、幼稚園の數が公私合せて四千五百四十、幼兒數二十萬三千六百三十一人である。

佛國の幼稚園は千八百九十八年の統計に依ると本國と殖民地と合せて五千六百八十三、幼兒數七十二萬九千六百四十八人である。今日では遙かに其の數が増して居ると思ふ。これを我が國の幼稚園及び幼兒の數に比べるともとより霄壤の差である。併しながらこれを小學校の數に比すると、未だ充分の發達とは云はれないのであります。更らにフレーベル先生の郷國、獨逸ではどうであるかと云ふに、南獨逸のバイエルン王國には公立で幼稚園が没けてあるけれども、他の聯邦は多く私立である。全獨逸を通じてあまり發達して居るとは云はれないと思ふ。

### △幼稚園教育の振はざる原因

斯くの如く幼稚園が思ふやうに發達しない原因は何處にあるか、明治四十一年にフレーベル會から文部大臣に建議されてあるが、その中に次の如きことが述べてあります。『維新以來我國百般の制

度文物が非常に進歩して、高等専門教育の擴張、普通教育の上進、殊に義務教育年限の延長の如き諸般の事項日進月歩の状を呈し眞に嘆稱すべきものがあるのに獨り幼稚園事業に至つては其成績の見るべきもの比較的少なく、其進歩の狀他と相伴はざるは遺憾である。幼稚園の振はないのは、一言で云へば上下一般が未だ之れに盡すの餘力ない爲であるけれども國民が幼稚園教育の必要を感知すること少なく、司政者、之が指導獎勵の道至らざる所あつて幼稚園に關する規程の他に比して十分なるに原因してをる云々』。成る程此の建議書に述べてあることも確かに幼稚園教育の振はない原因となつて居るのである。併しながら私の考へる所によれば主なる原因は教育系統上幼稚園の地位がはつきりして居らないと云ふことにあるのであらうと思ふ。御承知の通り、教育の施設には自治團體、又は私人經營の自由に任せて居るものと、自治團體をして必ず施設せしむることになつて居る

ものとの二種類ある。即ち市町村をして必ず設けさせるものと市町村或は一私人の自由に任せて置くものとある。普通教育で申すと高等小學校、實業補習學校の如きは自治團體の自由の施設に任せて居る。之に反して尋常小學校は必ず設けなければならぬものと成てをるので、自由ではない。處で自由の施設に任せてあるもの、中にも亦二種ある。一は一般に必要なものであるが、他方の經濟事情に依り一般に強制することが出來ないから經濟事情の許す限りに於て施設させるのである。一は全く土地の情況に由り施設するもので經濟事情が許しても其地方に必要なれば設けられないものである。例へば圖書館の如きは何處の地でも大切である、農業地方にも、商業地方にも必要なものである故に、經濟が許せば何處の地方でも設けるが當然である。併し農業地方に農業補習學校を設け、商業地方に商業學校を設けることは經濟事情も關係するのであらうが、第一土地の狀況に由ら



なければならぬのである。

然らば幼稚園は如何なる種類に屬するかと云ふと、今日の制度では自由の施設に屬するものとなつて居る。それで土地の状況に由つて施設するのではなく、民力に由つて施設するのでもない。勿論幼稚園の中にも労働者の子供を預る幼児預所は労働者の多い土地に設くべきもの、即ち土地の状況によるべきものであるが、今日の我國の幼稚園は土地の状況に由らず、經濟が許さへすれば何處にも設けるのが當然なのである。幼稚園は地方民度により出来るならば設けるべきものとしたならば、地方經濟の豊かな土地には澤山設けてあるのが當然であると思ひます。然るに今日の實際はさうでなく、或る縣には幼稚園が比較的多く、或る縣には一向發達しない、その縣の經濟が許さないから發達しないといふのでなく、つまり其の地方の當局者、又は地方の人が幼稚園を設ける考を持つて居る地方にはあるが、その考を持つて居ら

ない地方では、たとひ民度及び土地の状況が許しても設置しないのである。

さういふ様に幼稚園が當局者及び土地の人の勝手の手で設けられて居るのが、今日の事實であると思ふ。即ち幼稚園が教育系統の上に保つべき地位が明らかになつて居らぬ。それが爲めに出任せと云ふては極端かも知れぬが、或る處には澤山にあり、或る處にはちつともないといふやうに頗る雜である。故に幼稚園を盛にするには一般の教育系統上どういふ地位を保つべきかを明らかにしなければならぬ。

### △幼稚園獨立の價値は

#### 共同心の養成にあり

然らば幼稚園のとるべき立場といふ者は、どういふ處であるかといふと幼稚園教育者の主張は、幼稚園は家庭教育の缺點を補ひ、又は家庭と學校

との關係を繋いで圓滿ならしむるのであるといふのであります。又現行の小學校令施行規則にも幼稚園で保育するには其の心身を健全に發達せしめ、善良なる習慣を養ひ、以て家庭教育の缺點を補ふにありとして居ります。

これ等に就て私の考を忌憚なく申して見れば、私は幼稚園の立場を明らかにするは家庭及び學校の補助教育としてみるばかりでなく、教育系統上獨立の立場の存することを認めなければならぬ。それだけでなく幼稚園はあつてもよし、なくともよしと云ふことになる。家庭教育がよく行はれ、家庭と學校との聯絡がよくついで居るならば、幼稚園はいらぬものであるとの議論が生れてくるのである。私の考ふる所では、家庭が如何に立派で、學校との聯絡が如何によくついで居つても、矢張り幼稚園は大切である。何故に大切であるか、何故に幼稚園をれ自身が獨立の價値をもつて居るかと云ふとは社會生活又は國民生活の要素と成

てをる<sup>△△△</sup>共同精神を涵養すべき重要な機關であるからだと答へなければならぬ。

千九百九年の十月、獨逸の帝國議會の議事堂で全國の青年保護大會が開かれて國民教育に關する事がやかましい問題と成てあつた。その時バイエルンの首都ミュンヘンの教育課長をしてをるケルシエンスタイネルと云ふ人を聘して國民教育に就て一場の講演をして貰つた。その結果が小冊子となつて公けにされて居るが、其中に國民教育の大切な方便として共同作業を學校教育で獎勵しなくてはならぬと云ふ事を述べてある。學校教育に於て兒童が別々に仕事をせず、團體を作つて一緒に仕事をするのが共同作業である。例へば手工の如きを別々の仕事としてさせるのでなく、多くの子供に一つの品物を作らせるのである。共同一致の精神を有つてをることは一國民として大切な條件であるから共同作業に依て其精神を養成するのである。然るに此精神の養成は之を學校教育

にのみ任すべきものであるか、小學校に入る前には之に關してさう多く考へないでもよいものであるかと云ふに、自分の考ではこれは必ず小學校に入る前に養はなければならぬと思ふ。子供は小學校に入るすつと以前社會的生活を求めらるやうに成て來る。その時に共同心の教育をしなければ立派な國民の土臺を作ることには出來ない。私の友人に丁度幼稚園に入れるべき年頃の子供をもつて居る人があります。其友人の話に『自分は幼稚園の教育にはあまり賛成しない、幼稚園をなくてはならぬものとは思はない。併しながら自分の子供には兄弟が無い爲め家にばかり置くと淋しがつて食べものなどばかりねだつてをる。さればとて近所には宜い友達もないからそれと遊ばせることも出來ない。それで止むを得ず幼稚園に入れるのである』とさう云つて居りました。その通りで幼稚園に入る頃になるとたゞ一人で遊ぶのを淋しがらる、社會生活の要求が起つて來て兄弟がある子供は、一緒

に成つて遊ぶのであるが、一人ざりの子供は寔に淋しく感ずるのである。此の自然の要求が起る時に共同心を養ふことが大切であるが、家庭教育ではそれを十分に行ひ得ない。小學校へは學齡に至らなければ入れられないから、どうしても三才位から學齡までの間の特別なる教育が必要になる。その必要に應ずべきものが幼稚園である。さう考へると幼稚園は家庭教育のお手傳教育として成立つのでなく、立派に獨立の價値があるといふことを見出されるのである。

### △幼兒保育の方針

幼稚園の立場を明らかにし、獨立の價値を認める方針をたてると、保育上にもいろいろ變更を要することが起つてくるのである。元來私幼稚園のことに不案内であるが、遠慮なく申すと、これ迄の幼稚園の方針に二つの異つたものがあり、或はそれが相混じて居ると思ひます。その一つは假に

學校的保育法と云ひ、一つを家庭的保育法と申しませう。伯林にあるベスタロッター・フレーベル會のたてゝ居る幼稚園の如きは家庭的の保育を行ふて居る。室も家庭の様に小さい室にして、子供を一家族と見做して四五人づゝ入れ、丁度家庭の眞似をして居るやうなものである。その他一般の幼稚園は學校的の保育法をとつて居る。此の二つの仕方は或る程度迄はとつてよからうと思ふが、先刻申した様に、幼稚園の立場を別に考へると、今迄のやうな仕方ではいけない。一體學校の教育では共同の精神を充分に發揮する事は出来ぬ。なせと云ふに種々の教科を授けなければならぬ。それからまた教室に入れてあまり自由に活動させることは出来ぬ。今日の學校はさう窮屈にもしては居られないが、學校教育の元來の性質を分析して考へてみると、さう自由に教育することは出来な事情の下にある。瑞西の或る教育者は時間を定めないうで、自由に遊びをする間に國語を教へ、算

術を教へようとしてゐるが、中々さうは行かない。學校教育では或る程度迄規律を正しくして、自由の活動を許さない性質を帶ばなければならぬ。さうすると自由に一緒になつて働くことが出来ないから、共同心を養ふには都合が悪い。然るに幼稚園の仕事は決してさう窮屈なものでない、自由に働かして、一緒にさせるのであるから、共同の精神を養ふことは、もし方法が宜しきを得れば、學校教育よりも優つて居るのである。それを窮屈な學校教育の眞似をして、幼稚園教育がもつて居る自由な長所をなくすることは賛成することが出来ない。これ等は幼稚園が學校教育の準備をするものであると云ふ考が勝て居るために左様な結果を來すのである。準備も大切であるが、幼稚園を自身に尊い目的がある。その目的を達するため働くのが大切である。幼稚園の上級になると規律をつけて學校生活の準備をするやうにせられてゐるが自分の考では寧ろ小學校の一學年に幼稚園

の眞似をさせる方が宜いと思ふ。獨逸の教育界では近頃初學年の教育を幼稚園の如く自由にしようと思ふ運動があります。幼稚園の眞似をさせるのは寧ろ當然であるが、幼稚園が學校の眞似をするに及ばないと思ひます。

### △所謂家庭的保育の誤謬

學校なり幼稚園なりが家庭になり代つて教育をするといふことは非常に受けのよい意見である。併しよく考へるとこれには余程缺點がある。學校に就て云ふと、寄宿舎の設備を家庭らしくすると云ふことは近頃よく主張される所であるが、大勢の生徒を泊めて置く寄宿舎の如き必ずしも家庭的でなければならぬとは云ひ得ない。家庭の親子の感情を以て結ばれて居るのであるが學校はさうでない。舎監や教師が其生徒に對するのは眞の父母の如く親切に、やさしく世話をすべきものであることは勿論であるが、併しながら如何に考へても

生徒は他人の子である。他人の子を自分の子と考へることは出来ないことでもあり又強ひてさう考へる必要も無いと思ひます。やはり他人の子供と考へて差支ないのである。それであるから寄宿舎の如き無理に家庭的にする必要はないと思ひます。幼稚園に於ても同じことで、家庭教育が不十分なために幼稚園の必要があるといふならば、その不十分な家庭の眞似をするのでは幼稚園の必要はないのである。やはり幼稚園の特別の長所を發揮させ、社會生活の趣味、共同心の養成をすることが大切である。

幼稚園教育は學校の眞似をすべきものでもない、又家庭の眞似をすべきものでもない、如何なることをすべきであるかと云へば前に申した様に、共同精神を涵養することに努めるのである故に幼稚園の仕事は各自勝手に遊ばせるのでなく、團體に共同の仕事をさせて、保姆がそれを監督するのである。共同作業は即ち他日國民となつた時、

町村民として活動し、日本國民としての義務を果すの基礎を造るものである。

斯様な見地からすると幼稚園を自由勝手に設けるものとして置くことは出来ない。國民教育の大切な土臺を作る教育として、尋常小學校の如く、一種の義務教育としてもよいものであるかも知れない。今日の幼稚園は果して義務教育とするだけの働らきをして居るかと云ふに、遺憾ながら然りと

答へることは出来ない。要するに幼稚園教育は家庭教育の助けをするばかりのものでない。如何に家庭教育が立派でも手の届かない部分がある。そこを幼稚園で教育する。又學校教育によりても手の届かない處がある。そこを立派に教育するのであるといふ考で改善を加ふることが幼稚園教育の發達の爲めに必要であると思ひます。

## 英文學にあらはれたる子供 (六)

東京女子高等師範學校教授 岡 田 み つ

『トム』と『マギー』 (つぎ)

——御菓子で又一喧嘩——

ある水曜日の事、伯父さん伯母さんがその翌日大勢御客に來るといふので、御菓子を焼く匂だの、汁の煮える響りだのが臺所に漲つてゐて、何となく樂みで、陰氣らしくはして居られない日であつ

た。『トム』と『マギー』は幾度か臺所へ押し掛けて行くので、臺所では、その都度相當の獲物を渡しては、當分は侵入して來ぬやうにと頼むのであつた。

二人は接骨木の枝に腰を掛けて、「ジャム」入の御菓子を食べたが、「マギー」は

「マ」兄さん明日逃げるの」と尋ねた。(トム伯父伯母の訪問の日には煩さがつて、家を飛び出して仕舞ふのが例であつた)

ト「ウーン。逃げない」と「トム」は答へたが、自分の分は食べ果て、仕舞つて。二人で半分づゝにするといふ次の菓子を頻りに見てゐる。

マ「何故兄さん?」「ルーシー」(従妹)が来るからなの。」

ト「イーエ。」ルーシー」なんぞ何と思ふものか。女の子じやないか。打毬戲も出来ない子だよ」といつて小刀を開いて御菓子の上に翳しながら、氣遣しさうに小首を傾けて居る。

マ「其では御酒入の菓子があるからなの。」と「マギー」は想像力を働かせつゝも「トム」の方に身を寄せて、目は菓子の上に動揺めいてゐる。「ナイフ」を見詰めてゐる。

ト「馬鹿! チブシー菓子<sup>ケイッ</sup>は明後日食べられるやうになるのではないか。「ブツチング」があるからなのだよ。何の「ブツチング」だか僕は知つてゐる。杏のだよ。あゝ食べたい」

と言ひ捨てた拍子に、「ナイフ」は菓子の上に落ちて、菓子は二つに截れた。が、結果が面白くないので、「トム」はやつぱり二つの切片を氣遣はしさうに眺めてゐる。暫くしてトムは、

ト「「マギー」さん目を御塞り。」

マ「何だつて」

ト「何でもいゝよ。お塞りといつたら塞ればいゝのだ。」

「マギー」は言はれるまゝにする。

ト「サー何方<sup>どっち</sup>を取るの、マギーさん。右か、左か。」

「マギー」は「トム」の機嫌を害はぬやうにと、緊と目を塞ぎながら。

マ「ジャム」の流れ出てゐる方」といふ。

ト「だつて其方は厭なくせに。公平に分けて、其

で「マギ」さんが其に當れば上げるけれど、さもなけりやいけなさいよ。右とか左りとか御定め。

(「マギ」が細目に開いて瞰くので「トム」は憤發となつて) エー! 目を塞いでゐるのだよ。サ

ー、其でなけりやどつちも上げないよ。」

「マギ」の献身的精神も、其處までは發達してゐなかつた。「マギ」は良い方を與へて兄に喜ばれるのはいゝが、兄に皆與へやうと迄は思はないので堅く目を塞いで、「トム」が何方とか言へといふのを待つて、「左の方」と答へた。

ト「御前に當つた。」と「トム」は幾分か苦しくし氣にいふ。

マ「あら! ジャムの流れ出てゐる方?。」

ト「そうではないこちら。」と云つて「トム」は斷乎として大きい方を「マギ」に渡す。

マ「あら兄さん。此方を御取りなさいよ。ちつとも構はないの私は其方が好きな。ヨー。之になさいよ。」

ト「イヤ〜 用ない」と苛立つて、「トム」は小さい方をさつさと食べ出した。

「マギ」はこの上争つても無益だと思つて、自分も食べ始め美味さうにさつさ〜と食べてゐたが、「トム」は自分のが先へ無くなつて仕舞つたので、もつと欲しいなと思ひながら「マギ」の最後の一口二口を眺めてゐるより他はなかつた。「マギ」は「トム」が見てゐるとも心付かず、接骨木の枝に上下動をしながら、ジャムといふ事、暇で氣樂だといふ念を除いては全く我を忘れてゐた。最後の一口を頬張つた途端に、「トム」が「欲ばり!」と叫んだ。「トム」は自分が公平な取計ひをしたといふ自覺があるので、「マギ」が其を徳として其だけの恩返しを爲べきだと考へてゐたのだ。「マギ」が上げると言つたのを先刻は拒んだけれど、自分のが手にある時と、食べて仕舞つた後とでは、自から思惑も違つて來るのであつた。

「マギ」は眞青になつた!



「マ」あら、兄さん、何故呉れと言はなかつたの。」  
「僕の方から呉れなんて言ふものが。慾張りめ  
！言はれないうちに其方そっちで思ひつきさうなもの  
ではないが。僕が「マ」さんに良い方を上げた  
のを知つてゐるくせに。」

「だから上げませうと言つたではありません  
か。さう言つたでせう」と「マギー」も氣を悪く  
する。

「言つたさ。だけど「スパウンサー」見たやうに  
公平でない事を僕はするものか。「スパウンサ  
ー」は打ちでもしないと、必然きつと良い方を取つて仕  
舞ふし、目を閉ぢて僕が良い方に當つても、す  
り換へてしまふ。僕は誰とでも半分分けにする  
時には公平にするんだ。而して、慾張りなんか  
にはならないんだ。」

この剣さのやうな諷刺あだこりを残して、「トム」は樹の技  
から跳び下りて、「ヤツブ」といふ犬に「ホーイ」と  
いつて御愛想に石を一つ投げた。「ヤツブ」は、今迄

御菓子ごかしの口に消えて行くところを、耳を動かして  
自烈じれつつたさうに見詰めてゐたのだが、呼ばれると  
直ぐ御福分ごふくぶんになつた程に迅速に「トム」の傍らへ來  
た。

併し「マギー」は「ヤツブ」と違つて、苦痛を感ず  
る力があるだけに、ぢつと樹の枝に坐つて、咎も  
ないのに、批難ひなんされた口惜しさを染み／＼感じ  
た。あんな御菓子ごかしなんか、「トム」の爲なら、もう  
大喜びで口にせずにもゐられるものを。あの御菓  
子が美味くないといふ譯ではないのだが、「マギ  
ー」の味覺は鈍くないのだから、「トム」に慾張り  
と言はれたり、怒られたりするよりは、もう／＼食  
べずにゐた方がいくらか分らぬのに！上げま  
せうといつても「トム」は不用いふたと言つたから、自分  
は考もなく食べて仕舞つたので、どうも無理もな  
い事なのだと思つて、涙がはふり落ちた。其で  
十分が程といふもの、四邊あたりの物の見堺まじかも付かなか  
つたが、やがて怨恨うらみの念もいつしか過ぎて、仲直

りがしなくなつたので「アギー」は急いで枝から飛び下りて「トム」を探した。草の積んである庭の後ろの牧場にも見えない。「ヤツブ」を連れて兄さんは何處へ行つたものだろうと、高い土手に走り登つて見ると、「フロツス」河の方が遠くまで見渡されて、成程「トム」が向ふに見えるには見えるが、随分遠くの方を「フロツス」河を指して、しかも一人ではなく、「マギー」の嫌ひの男の子と連れ立つ

### ○エラクなる人

——(フレールベル會總會にて雙葉幼稚園後藤りん子氏談話の一節)——

此の頃大學の學生さんに會ひましたら、幼稚園時代に教はつたことが一番頭に残つて居ると申します。自分もさうではないかと考へて居りましたので、かういふ確説をきいて少し威張つてみました。そこでどういふ感化が一番残つて居ますかと尋ねましたら、幼稚園時代に嘘を教へられたことには困つて居るとの答へで、今度ば震へ上りました。その通りすべてに印象が強いのであるから將來に大切のことを此の時代にしっかりと頭に入れて聞いたらと思ひまして次の數條を擧げてみました。序ながら私は利口と馬鹿といふ言葉は決して使はないで、強い人弱い人と申して居ります。

エラクナル人

て行く様子である。之ではもう望みの綱も切れ果てた譯である。「マギー」は仕方なしに冬青ユキキの傍に坐つて見たり、生垣に沿うてぶらついて見たりして、心の中で現在と異つた世界を仕組んで、自分の氣に入つた事柄を在らせて、僅かに楽しんでゐた。「マギー」の生涯は苦勞の絶えぬ生涯なので、こんな空想をして憂ウレシを忘れるのであつた。

(つゞく)

○ウソチイハヌ人

○イケナイコトダトオモツタラスガヤメル人

○ナンデモヒトリデヤル人

○ドンナコトデモガマンノデキル人

○シブンヨリオ、キナ人ノ云フコトヲヨクキク人

○ヨライモノヤ、小サイモノヲカユガル人

○ヨクベンキヨシテヨクアソブ人

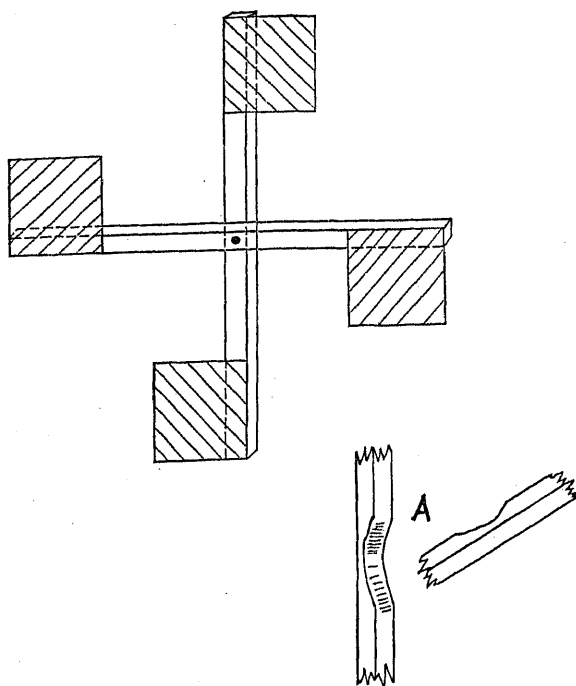
○ベカラズノナカニハイラヌ人

入園の始めから此の心持で教へて居りますが別にあらためては昨年と今年とは小學校に入る一週間前に申しました。來年は一月前位に致さうと思つて居ります。覺えても覺えないでも自由に致して無意識に暗誦させて頭に入れて置きますと、後年重寶するだらうと存じます。べからずと申すのは子供の一人がしてはいけないと云ふ事をべからずと申したので、それから使ひました。

家庭教育玩具の作り方 (續き)

第七圖 風車

(寸法。〃は寸又は吋、ノは尺又は呎)



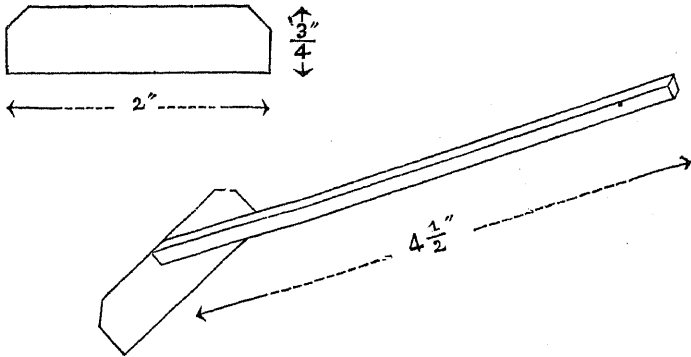
同じ長さの燐寸棒を二本取りて、其の中央を眞十文字に成る様に附着する。それから葉書又は畫用紙を二平方に裁ちたるものを四枚作りて、之を圖に示す如くそれ〃十文字の端に貼付する。糊がすつかり乾いたら交叉部の中央に孔を穿つて其に留針を通すのだが、此の孔は留針よりも少し許り大きくして風車が留針を軸として能く廻る様に作らねばならぬ。そこで今一本燐寸棒を取りて其の一端に前の留針の尖端を刺して柄となせば、それで風車が出来上る譯である。

少し面倒だが今一つの方法は、十文字を作る時に棒を二本とも其の中央の所をA圖に示すが如く厚さの半分位まで削り去りて、然る後に組み合すれば四本の手が水平になるから

藤五代策譯

恰好が良くなる。

第八圖 草削り

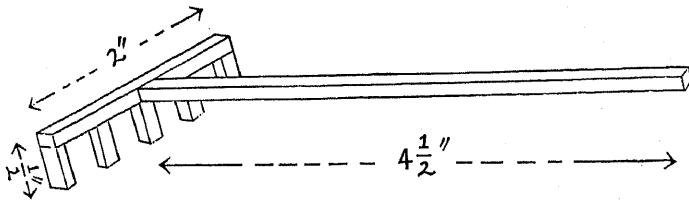


それが出来たら圖に示す如く板の上方を軽く削り

燐寸棒を $\frac{1}{2}$ に切りて柄となし、刃の部分には被板（今後は單に平板と呼）を長幅に裁ちて用ふ、尙ほ板の木理が横になる様に注意せねばならぬ。そこで様の上方の中央に印を付けて置いて、柄の一端を膠に浸して印の附いた所に附着する。

去る。

第九圖 熊手

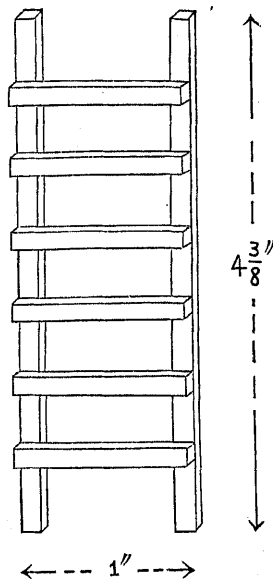


ら、柄を付ける前に柄の切口を少し許り斜に削つ

燐寸棒一本を取りて柄となし、外に長さ $\frac{1}{2}$ のを一本と $\frac{1}{2}$ のを五本作り、 $\frac{1}{2}$ のを鉛筆で五等分して印を付けて置き、而して其の印を着いた點及び兩端に前の短い五本の脚を着ける。それが出来たら圖に示す如く柄を付けるのであるが、尙ほ注意すべきは脚と柄とが直角に成つて居ては恰好が良くないか

て置くが宜しい。又脚の端も外面から少し削れば

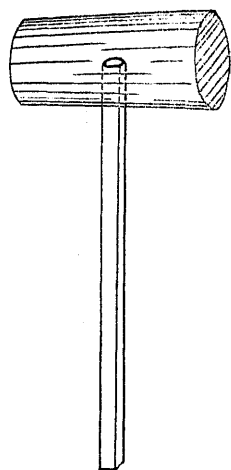
第十圖 梯子



一層良くなる。

長  $4\frac{3}{8}$  の燐寸棒を二本作りて之を梯子の親木とし、 $1\frac{1}{2}$  のを六本作りて段となす。先づ親木を鉛筆で七分分して印を付けて机の上に並べて置き、第一に上と下との段から始めて、漸次段と段との間隔を等しく且つ平行する様に、注意して附着するのである。

第十一圖 槌



燐寸棒を  $\frac{1}{2}$  に切りて柄と成し、其の一端の角を削りて丸く

し、今度は普通の木栓を取りて、中央から少し許り頭の太い方に寄つた所に孔を穿ち、前に作つた柄の丸い方の端を一寸膠に

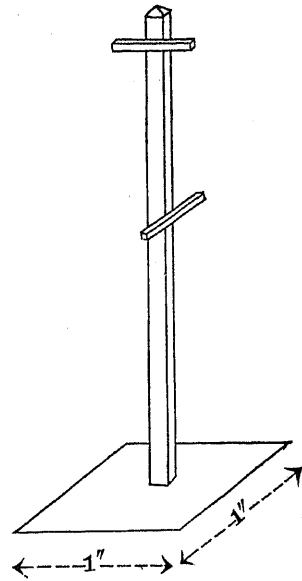
浸して此の孔に突き込むのである。

第十二圖 物干柱

燐寸棒を一本取りて之を柱とし、其の頂端の切口を削りて圖の如く尖らす、之は雨水が柱の繊維

に染み込めば腐るから水が能く流れて溜らない様にする爲である。此の理由は子供によく説明する價值がある。それから今度は平板を長  $1\frac{1}{2}$  幅  $1\frac{1}{2}$

に裁つたのを二本作りて横木とする。横木は一本



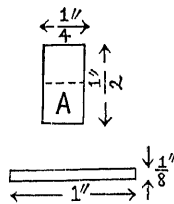
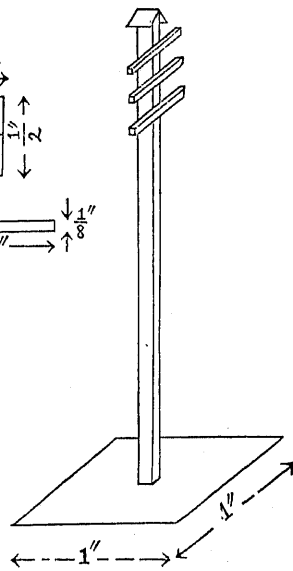
は柱の頂から1/2位の所に膠で附着し、今一本の方は頂から2/4位の所に上のと差し違へに着ける、無論二本とも柱と直角にならなければならぬ。次に臺は平板を1/2平方に裁ちて、之に對角線を引きて中心點を求め、此の點に前の柱の脚を膠に浸して附着するのである。

横木の附け方に今一つの方法がある。それは刃の薄い小刀の尖で柱に豎に割目を作り。横木を稍稍薄く削りて此の割目に注意して押し込み、又は叩き込むのである。此の方法は少し面倒だが併し

丈夫に出来る。又臺を確乎させるには臺の下から柱に留針を叩き込むのである。

### 第十三圖 電信柱

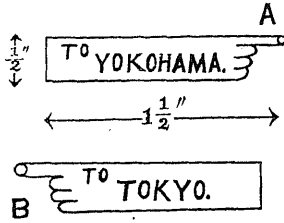
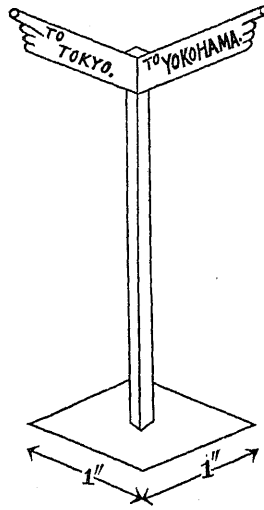
燐寸棒を一本取りて柱とし、其の頂端を楔形に



削りて之に平板で作つた屋根を被せ、雨水や濕氣等の浸入を防ぐ。平板を長1/2幅1/2位の裁ちたるものを三本作りて圖の如く柱に屋根と反對の向きに各平行に附着するのである。屋根は平板を長さ1/2幅1/2位に裁ち、A圖に示せる如く中央の點線に添ふて淺く切目を付けて折り曲げ、之を柱の

頂に貼り附ける。それが出来たら平板を二平方に裁ちて臺となし其の中央に柱を建てる。臺の中心は對角線を引いて見れば直ぐに解る。

第十四圖



燐寸棒一本を柱とし、平板を二平方に裁ちて臺

とし、尙ほ平板の長 $1\frac{1}{2}$ 幅 $1$ のを二枚作つて掲示板とする。そこで掲示板にA圖及びB圖の如く<sup>ひたししほび</sup>人差指を伸張した左右の手を描きて、缺で奇麗に切り抜き、それに行先の地名を書いて圖の如く柱に附着し、柱を亦臺に取り付けるのである。

年間へば片手出す子や更衣 一 茶  
 たのもしやてんつるてんの初裕 同  
 金太郎が膝ふしぎりの裕なか 同

○第二十回京阪神聯合保育會

京都大阪神戸三市聯合保育會は五月廿五日午前九時より、大阪市西區靱尋常小學校に於て開かれました。出席者五百餘名、例年の通り盛大なる會合でありました。講話としては奈良女子高等師範

學校教授雀部顯宜氏の性慾に關する教育上のお話がありました。協議問題の『幼稚園保姆養成機關を設けられんことを關係府縣知事に建議するの件』『神戸市保育會提出』及『幼稚園に二階建をも許可せらるゝ様規則の改正を其筋に建議するの件』

(大阪市保育會提出)は大多數にて可決いたしました。晝食後研究題『保育上の自由主義を採用せらるゝ實驗談を承りたし』(京都市保育會提出)に就ては數氏の實驗談や失敗談がありまして、自由主義の意義などに就きても説が出ました。此の時す

でに時間も遅くなりました爲、他の二つの研究題の中『幼稚園に於ける情操の涵養の方法を承はりたし』(神戸市保育會提出)は宿題とし、『二十恩物以外保育材料として現今使用せらるゝ恩物あらば其の種類並に使用方法を承りたし』(大阪市保育會提出)は撤回せらるゝこととなり、豫定の來會者十分談話も全部見合せ、次に各保育會の新遊戯の交換に移り夕頃閉會されました。

○フレール會六月常集會

本會六月常集會は廣告の通り、本月十四日(第二土曜日)午后正二時より、女子高等師範學校附屬幼稚園にて開會いたします。多數の方の御來會を希望いたします。

○御注意

フレール館への御注文を本會宛にて寄せられたり、本會への御手紙をフレール館宛で送られたりする方があつて、雙方にて手數のかゝることが屢々あります。フレール館とフレール會とは全く別でありますから、斯ういふお間違のない様御注意願ひます。



ゴルドン 女史著  
菅原教造 譯述

# 美學講話

全十八講

『婦人とこども』附録

- 第一講 入門
- 第二講 心像の話
- 第三講 感情の話
- 第四講 藝術の起原と職分
- 第五講 リズムの話
- 第六講 舞踊の話
- 第七講 音楽の話
- 第八講 色彩の話
- 第九講 線と形の話

- 第十講 圖案の話
- 第十一講 建築の話
- 第十二講 彫刻の話
- 第十三講 繪畫の話
- 第十四講 言語の話
- 第十五講 詩の話
- 第十六講 戯曲の話
- 第十七講 散文の話
- 第十八講 美と藝術

## 第六講 舞踊の話

### 目次

舞踊とは何ぞや——舞踊の起源に關する心理學的説明——原始文明に於ける舞踊——希臘舞踊——近代の舞踊——  
マーチ又は行進——寺院の禮拜式——パヴァン、ガヴォット及ミニユエット——西班牙舞踊——其他の國民舞踊——  
標題舞踊——姿勢及運動の原則

### 舞踊とは何ぞや

大まかな定義を下せば、  
舞踊とは感情を(或程度まで)表出するリズム的運動の連續體であると云ふ事が出來ます。かう云へば脚部及足部の運動よりも、主として腕と胴とを動かす東洋の舞踊も、又腕と胴とは餘り働かさずに脚部の運動を主とする西洋の舞踊も、皆含まれます。

舞踊にも、凡ての藝術に於けるが如く、形式的及び表出的(内容的)の二方面があります。表出即ち内容の方面から見ますれば、舞踊は或事實又は

感情を表出します。そして其の表出の道具は、云ふまでもなくリズム的運動をする人の形でありますから、完全に出來上つた舞踊の形は、明かに感情を表出する姿勢態度を示して居る筈であります。

併し今度は之を形式の方面から見ますれば、さう云ふ姿勢態度は、運動の安靜及び純なる優雅の要求、即ち形式を美しくしたいと云ふ希望のために、變改されなければなりません。茲に於て形式と表出との間に、興味ある關係を生じて來るのであまりして、形式を主にするか又は表出を重んず

べきか、と云ふ問題が生じて來ます。

舞踊に依つては、表情の爲めに形式を犠牲にする傾向を示して居るものがあります。さういふのは、**摸倣的**又は**寫實的**舞踊であります。又之と反對に、形式の爲めに表情を省みないのもあります。之は

即ち**裝飾的**舞踊又は**純粹なる優雅的**舞踊と呼ぶ事が出來ます。

純然なる**寫實的**舞踊は實際の情況を真似るか、又は其まゝ示すかで、實人生の昂奮せる瞬間を現はし、其の場合に應ずる運動を舞踊者が演ずるのであります。茲に示した舞踊の圖に就いて、ストレットの解釋を次に述べましやう——



「此の舞踊をして居るのは女である。女が身輕にすばやく熊に近寄つたり、**踏び退**いたりして、掴みかゝらせぬ様にし乍ら、時々わざと間隙を見

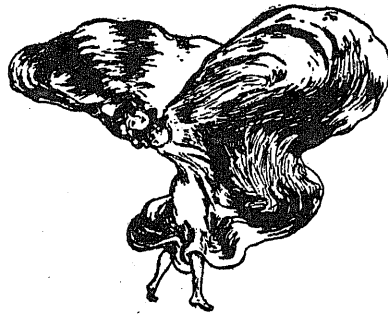
せる。すると其の爲めに故らに口網を外されて居る熊は、手品師の加へる鞭の爲めに**猛り立つて**、其の機につけ込まうとするのが、此の舞踊の大體の筋であらう。」

一言にして云へば此の遣り方は、**原始劇**と未だ全く離れ切らぬ形を示して居ります。即ち見物人の興味は、主として**境遇**其のものと熊を逃げ乍ら**装ふ舞踊者の情緒**とにあるので、要するに舞踊の運動は、此の特殊の境遇から生じた特殊の意味を持つて居ります。別言すれば此の舞踊は純内容的のものであります。

併し其の境遇を見物人に示して居る記號又は小道具、即ち此の場合には**猛り立つて居る熊を全く取り退けてしまふと**、始めてもつと抽象的な即ち内容を離れた状態を得る事が出來、見物人の興味は、形式的の方面即ち運動自身の快い效果に集中して、舞踊の裝飾的性質が一層明白になつ來ます。勿論此の舞踊にしても、猶、恐怖遁走に伴つて

起る行爲及感情を現はしては居りませうが、それは既に劇的な仕掛けとは離れて、摸倣的動機を持つ一個獨立の形であります。

もう一層純粹な裝飾的の型は、茲に掲げた「蛇



舞ひの女」でよく

分かります。此の

舞踊の起りは、何

か殘酷な話又は特

殊の情緒を表はし

て見せたのが始ま

りでなく、其の目

的はたゞ舞踊者に

優美なリズム的な

運動を起させ、衣裳の曲線の千態萬化を見物人に

示すので在ります。故に此の「蛇舞ひ」は、殆ど純

粹の裝飾的舞踊と認める事が出來ます。

通常此の二種の舞踊は、實際では理論ほど明白な區別がついて居りません。多くの舞踊は、摸倣的

及裝飾的の二方面を含んで居りますし、又完全なる美術的形式に於ては、凡て裝飾的興味と表情的興味が、十分に調和して居なければならぬのであります。

### 舞踊の起源に關する心理學的説明 第三講四

十二頁に於て述べたやうに、情緒を矛盾せる二つの衝動の結果と認める學說に従へば、情緒と云ふものは、尋常の掃け道に出損じたが爲めに、何か新らしい放出の道を見出さねばならぬ精力から生ずると云ふ事を意味して居ります。猶例を舉げて、精しく述べるならば、今茲に一人の人があつて、自分の受けた刺戟の結果として、攻勢をとつて向つて行くと致します。此の場合に、若し敵の抵抗力が弱ければ、復讐は直に遂げられて了ひますから、撞著もなく阻止も起らず、從て其の行爲は觀念的にも情緒的にも餘り働きを残しませぬ。之に反して、もし敵が恐ろしい力を持つて居る時には恐怖の本能が起つて前進を阻止（即ち恐怖と闘争

との二つの本能(衝突)致しますから、かうして止められた闘争の本能は、憤怒の意識的情緒となり、又明白な闘争的行爲となる筈であつたものは、單なる姿勢として残ります。即ち其の結果としては、戦はんとする姿勢に居る怒つた人が出来るのであります。

之をもつと一般的に云ひ現はしますと、或る事を仕度い乍ら敢て爲し得ぬ人は、自分の出来るまでの所を繰り返しして、僅に慰めるもので、實際に戦ふ代りに、斯くして反復された姿勢、即ち幾回も威赫又は攻撃的態度等が現はれて来るものであります。そして遂には、何の爲めに斯る姿勢を取るかと云ふ理由が分らなくなつて換言すれば斯る態度自身が目的となつて、且つ其の態度の反復がリズム的になりさへすれば、茲に所謂舞蹈が出来るのであります。

要するに舞蹈の起源に關する心理學的説明は、第三講四十四頁「情緒に於ける運動的態度」、即ち

表情の所で述べた事實と同様でありまして、一言すれば、舞蹈の起源は表情の原理と同一なる心理學的説明を與へらるべきものであります。そして此の説明は、只今例に引いたやうな戦振りの舞蹈に限らず、冠始葬祭喜怒哀樂等の、それ／＼特殊の情緒的動機を有する舞蹈の起源にも、廣く適用せられるのであります。

姿勢態度の話は精しく申しましたから、次にリズム的反復と云ふ事に就いて述べやうと思ひます。獨逸の美學者グローセ(この人に就ては第四講五十三頁參照)が舞蹈の純體操的要素と呼び做して居る此のリズム的運動は、本能的のものであると云ふ事實は、一般に認められて居る所であります。元來運動と云ふものは、一般に愉快なものではあります、之に強いリズム的反復が加へられると本能的に非常にそれが遣り度くなつて來ます。リズム的な活動が始まれば、舞蹈者は全然精力を消耗し盡して、時には身體を損ふ程之に没頭

し切つてしまふものであります。リズム的な運動は、又不愉快な時の氣晴らしにも効果がある事は人の長く知つて居る處であります。

### 原始文明に於ける舞踊

原始藝術研究のオ

ンソリティーたるグローセは、古代舞踊を體操的と模倣的の二種に分けて居ります。次に此の分類に従て、例を以て大體を述べて行かうと思ひます。

第一に體操的舞踊に就て申しますと、この例としてグローセは、濠洲のコロポリを擧げて、次のやうに云て居ります——

「彼等が拍子を正確に守る事は驚くべきもので、樂器の調子と舞踊の運動とは、ピッタリ合つて居る。大勢の舞踊者は、第一流の舞踊一座の様に、しなやかに身を動かす。彼等はあるとあらゆる姿態をとつて居る。例へば、或は側へ踏わきび、或は前へ進み、或は一二歩後へ引き、スツクと身を延ばすかと思へば又屈め、手を振り、足を踏み鳴らし

などする。指揮者も又ぐづぐづしては居らぬ。棒で拍子をとり乍ら、一步出したり引いたりするにつれて、或は高く或は低く特殊な鼻音の歌を謡ふ。彼は一瞬時も同一地點に立ち止まつては居ない。今舞踊隊の方を向くかと思へば、忽ち婦人隊（音樂を奏して舞踊に伴ふ）の方を向く。すると女達はあらゆる限りの聲を張り上げる。舞踊者は段々熱して來、拍子とりの棒は愈々早くなり、運動は益々急速に且つ激烈となる。舞手が身體を搖すつて、到底信じられぬ程の高さに踏ふび上つて、最後に異口同音にけた、ましい叫びを擧げるかと思ふと、瞬くひまに、出て來た時と同じやうに、不意に皆斃の中へ消えてしまふ」

此の舞踊は少し許り變つた手がいある許りで、數肩繰り返され、而も其の度ごとに熱心は加はるのであります。

第二に模倣的舞踊の話に移ります。此の舞踊には色々な形があります。狩獵種族は、狩獵の様子及

其の追ふ動物の眞似をしたりするので、彼等の間にはエム、ディンゴ、カンガル、蛙などの舞踊が出来て居ります。原始民族の間には、猶此の外にも、戦舞、愛舞其他、自然力及季節の變化等を表はす宗教魔術の儀禮等もあります。又種族に依つては、色々な女の仕事、即ち海女、草木の根掘り育兒等を眞似た舞踊もあるさうであります。歐洲でも民踊によく農業を模倣したのがあります。

舞踊の原始藝術的意義に就ては、グローセは「原始舞踊は、原始的美的感情を最も露骨に最も完全に最も強く表現して居るものである」と云つて居ります。實際舞踊の様子と歌や樂器の音とが、原始的の見物人に及ぼす強い力は、殆ど催眠術的で、其の刺戟的效果は、如何なる藝術的形式よりも大きいものであります。

次に舞踊の社會的意義は、その種族にとつては極度に重大なものであります。原始民族は通常一人一人踊らずに、大勢で踊ります、そして斯の

如く同一リズムに合はせて動き、全然同一の運動を同時に演ずると云ふ事は、勢ひ協同一致の感じを全體の人々に印象致します。米國の大學教授サンチャーナの言は、よくこの關係を云ひ現はして居ります——

「聖舞の列に交つて舞ひ、軍隊と共に行進する等、何にてもあれ共同的運動の仲間入りをすれば心は聲なき偉大の情緒に滿される。由來重き暗示、大いなる意志の壓迫は、必ず實行を招致する。故に斯る共同運動に際しては、無限の資源及明確なる豫告は心靈の中に蓄積されるのである。而してたゞ嚴かに連れ立つて練り歩くだけでも、後に此の團體を離れてすら猶、普遍的警告と權威とを意識して生活せしむるに足る最良の準備たる事が出来る」。

### 希臘舞踊

古代の民族は一般に舞踊を尊ん

だものであります。希臘人程眞目にこれを讚美し又これを整然と演じたものはありませんでし



た。希臘人は、男女の神々をも舞踊家として考へて居りましたし、又えらい政治家や哲學者が、肅嚴な公儀の舞踊に加はるのも珍らしい事ではありませんでした。たとへば哲學者のプラトーン、劇詩人のソフォクレス、雄辯家アルキピアデス等は、舞踊者の合唱(コーラス)の音頭をとつたと云はれて居ります。

希臘人の遣つた舞踊の中で、最も重要なもの、一ツは、ピルス舞踊でありました。親は國法として、小供等にこの舞踊を習はせた位のものでありましたが。ピルス舞踊には幾通りもありましたが皆武張つたもので、青年達は胃・楯・矛等で充分に武装して、戦鬪の發展を演じて見せ、或時は一騎打、或時は團體を組んで、攻守の運動のあらゆる様を其のまゝ真似ました。外にも神々及勇士達の生活、たとへばバリスの審判、ディオニソスとアリアドネとの婚禮、テシウスの迷宮裡の冒險などを模したのもあり、又宗教及葬禮に用ゐる舞踊も

ありました。

希臘舞踊の家實際の姿勢運動及び所作の細かな點は、記念碑や花瓶畫の人物の姿を基にして、いろいろ研究されて、さういふ物から種々の姿勢を知る事が出来、又其の姿勢から運動其物も確に推斷する事が出来ます。現今では希臘舞踊研究



のオーソリティーは、佛人エ

マニユエルであります。概

して慣例化した身振り、情

緒的姿態の遺物は希臘人の

儀式の中でも、傳說的の地

位を持つて居りました。例へば茲に掲げた圖にある通り、信仰家の表情は掌を上に向けて兩手をさし舉げて居ります。これは多分何物かを上から受けやうとする豫期にあてはまる姿勢が、其のまゝ残つたものでありませう。又傳說的な葬儀の身振は、此の圖に示してある通り、頭を下の方へ引張る様にして攔むので、これは始めは髪を引きちぎ

つたり、顔を引掻いたりする葬式の時の所作が、慣例化して残つたのでありませう。この姿勢はサルダントの豫言者の中に出て居ります。

希臘舞踊の技巧中には、近世の舞踊と非常によく似たのも澤山ある様ですが、併し猶兩者の間には所白な相異があります。たとへば下段の圖の様に兩足を同じに揃へて立つたり、手を兩脇に眞直



に垂れたり、鋭角をして身を曲げたりする事は希臘人は致しませんが、今日では許されません。又強

く身を拗曲する事、たとへば思ひ切つて屈んだりグツと反つたりする事は、バッカスの舞踊には通常の運動であつたのみならず、一般に希臘人はよく是を行つたものであります。併し最も重要な相異點は、希臘人の方が頭と腕とを非常に餘計使つた事でありませう。近代の舞踊では、手は單に腕の



一部として見られるに過ぎません、即ち一〇二頁の圖に示す如く、手は單に腕の線と其の運動とを完成するもので、指はいつも一定の形に集められたまゝであります。然るに希臘人は、其の反對に、表情のために手は殆ど絶えず動かして居りました。

此の相異は、希臘人は舞踊と無言劇とを一所にして居り、この何れとも付かぬ中間の形に依つて、あらゆる模倣的動機を表出して居つたといふ事實に基いて居ります。故に希臘人に在ては事實の表示と感情の表出即ち内容的方面の爲めに、純粹の優美即ち形式的裝飾的方面がともすれば後廻しにされたのであります。併し近代人に在ては、之と反對に、事實の表示は劇と無聲劇とに其役目を讓つて、舞踊は單に優美なる表情のみに限られて居るのであります。

### 近代の舞踊

舞踊は中世の頃甚しく貶され或寺院の訓戒に依つて禁せられた事もありました

が、十五世紀の末頃には、又これが復興して參りました。伊太利では、メデイシ家が、その宮廷に華麗を添へんが爲めにこれを奨勵し、カタリーヌ・ド・メデイシを通じて、此の興味が佛蘭西に擴まり、佛蘭西に於て近代の舞踊は、最も規則的に發達を遂げたのであります。

凡ての藝術同様、舞踊も各國民互に借り合つて、而も其の中に各自の特徴を見せ、國民性を表出して居る獨特のものを作り出しました。舞踊は如何なる言葉を用ゐても、適當な觀念を與へる事は出來ませんが、比較的よく知られて居る舞踊を擧げて、その美的性質を評價して見ませう。

**マーチ又は行進** 専門的に舞踊の分類中にはいる最も簡單なリズム的の運動は、行進の際に起る交互の足踏みであります。此の歩行の歩調はもつと込み入つた歩調の豫備として、又は複雑な舞踊の中にはさむ歩調として、用ゐられることもあります。併し行進の場合では、他のものを何

も含まずに、たゞそれだけで完成して居る一所作を爲して居るのであります。斯る行進又は行列の歩調には、強い簡單なリズムが働いて居りますから、従つて行進の主要な美的效果は、重大、威嚴及簡素の印象であります。又斯う云ふ形式的行進は普通大勢の集團の運動でありまして、斯る群集の規則立つた前進は正確に拍子のとれた簡單な運動を要求致しますから、此の運動から生ずる強直的は姿勢も亦、威嚴の印象を強めます。

次に行列を造つて居る人々の感じから云ひますと、「原始文明に於ける舞踊」で述べた通り、斯う云ふ運動に参加した人々の經驗には、團體に對する協同一致の感じが含まれて居ります。そして此の一步一步共同のリズムに合はせなければならぬと云ふ感じは、全體に對する服従の感じを強めると同時に、又全縦隊が自分と共に動いて居ると云ふ感じは、力と勢の感じを強めるものであります。

次に見物人が云へば、美的効果は主として眼に訴へる要素に依るのでありますから、見榮えのする爲めには、列の長さや幅とに注意をしなければなりません。動いて行く縦隊の美観は、眞先さきに注意を惹く爲めに、何か際立つたものを見せなければならず、それから漸々列の終りの或種のクライマックスに運ぶ様にしなければなりません。例へば軍隊の行進の場合には、先頭に樂隊をおいてそこを強め、列の中程と末には、騎兵・砲兵又昔ならば戦利品などをおきました。

最後に行列は、古代近代共に重要な社会的職分を持つて居ります。美術史家ベレンズンは其著「文藝復興期に於けるヴェニス派の繪畫」に於て、「海陸の行列又は莊觀はヴェニスの國に在つては、カトリック寺院の高尚祈願にも劣らぬ儀式であつた」と云つて居ります。かういふ儀式は、よく彫刻家及畫工の題目となりました。有名なる實例は、バルテノンの小壁の行列及マンテナの畫いた「シーザ

ト凱旋」の繪であります。

### 寺院の禮拜式

中世紀の敎督敎寺院では、

古代の異敎の神聖な儀典に於けるが如く、舞踊を公認して居りました。寺院が民俗の舞踊を壓へつけやうとして骨を折つた事實に照すと、これは少し變に思はれますが、ヴェイユエはこれを次のやうに云つて居ります——

「宗教的舞踊を最も顯著に固持したのは、天主教國なる西班牙であつた。ヴィラヌエヴァの聖・トーマスの時代は、セヴィル・トレド・ジエレス及ヴァレンシア等の寺院では、聖餐の前に舞踊をするのが常であつた」と。實際此の風習は、今猶セヴィルの寺に残つて居ります、唱歌勤行の男兒等が演ずる舞踊は、精緻活潑なものだと申します。

今日の基督寺院で多く行つて居る禮拜式の中には、廣義の舞踊と云ふ語に、當然入れて然るべきものがあります。現に希臘敎、羅馬敎及英國敎の禮拜式の中には、行列は勿論致しますが、之に加へ

て主僧及從僧が登壇の前で、一定の歩調と姿勢とをとりまゝす。そして之は、儀式に非常な美と威嚴とを與へるのであります。

又古代英國の形式を留めて居る寺院では、主僧が香を焚く時、二人の從僧を左右につれて、初めて祭壇の正面に立ちまゝす。三人一度に跪いて立上ると、主僧は香爐を三度祈壇の十字架の前で振り、又三人共に跪いて立ち上り、打揃つて靜々と右の方へ三四歩行きます。その歩調は、搖れて居る香爐のリズムに通ずるものとしてあり、祭壇の端へ行くと、香爐をきまり通りに振ります。祭壇の左側へ香を焚く時も、このどほりにし、最後に三人共中央で戻つて參ります。これは當然聖舞とも名くべき、リズム的な規則的な一聯の運動を成して居ります。

宗教的勤行に法定せられた、姿勢は敬虔・恭順・祈願等の情緒的狀態を表出して居ります。最も普通なのは、跪坐、揖禮・跪拜などで、希臘教の寺院で

は、更に身をひれふす事もします。是等は情緒即ち此の場合には畏怖崇仰の情緒の慣例化した表情の適例であります。面白いのは、寺院に於ける揖禮は、我々が友達を認めたり、敬意を表したりする時にすると同じ程度のもので、跪拜は世俗の舞踊及世間の作法では、禮讓又は尊敬として表はれ、名の如く禮讓及尊敬を示して居る事でありまゝす。斯様云ふ一定の宗教的用法の目的が、或古い本に出で居りますが、これは形式の美的鑑賞をよく表はして居りますから、次に引用致しませう――

神の禮拜の式に當つて彼よりは是へと移るは、厭き倦する事を避けしめ、怡々欣然として、空しき形のみならぬことの恭敬熱信の悦びをもて、禮拜をつゞけしめんが爲めなり。時に願ひ、時に讀み、時に聞く。或は一人、或は二人、或は又衆と和す、坐す時あり、立つ時あり、揖禮する時あり、跪く時あり。これら、凡て主イエスキリストを讃せんが爲めなり。かくして肉體を心靈の働きに添はし

めかゝる肉體上の典禮に、必ず靈の了解をも伴はしめんとするなり。

美學上の靈的・了解とは、多少必ず肉體上の法則と關係して居ることは、後に分ります。

### バヴァン、ガウオット、ミニユエット 第十六世

紀の古い宮廷舞踊の中で、最も重要なものであり、且つ歐洲の開けた地方で、到る所流行したのは、バヴァンでありました。大抵の貴族間の舞踊と同じやうに、此のバヴァンは民間の舞踊に比べるとよく出来て居り、又莊重なものでありまして、此の儀式的な舞踊の中には、讚美詩や詩篇の詩に合はせて踊る位まじめな性質のものもありました。佛蘭西の宮廷では、シャルル九世のお氣に入りの舞踊は、「かれらはしばしくわれをわかきときより惱めたり」の聖詩の曲に合はせるのであつたと申します。バヴァンは多勢の人が二人づゝ組んで踊ります。歩き方は簡單で今の方舞(クッドリール)に似た所もある一種のブロムネードでありました。

ガウオットはやはり十六世紀及び少し後迄流行つたもので、これも宮廷の舞踊ではありましたが、バヴァンほど嚴肅ではなく、靜かな運動に交互して、刻み足の迅い運動を入れるのであります。これはアマリリスの曲に合はせて踊りたもので、この曲からその運動を幾分推斷する事が出来ます。宮廷舞踊の最も重立つたものは、ミニユエットでありました。これは佛蘭西で發達し、開明人の間に百年間ももてはやされたものであります。これは實に舞踊中の女王と呼ばれ、あらゆる雅容の粹を集めたものとされて居りまして、其時代ミニユエットを習ふ者は、三ヶ月の練習の後でなければ、人前に出られませんでした。これで見ても、今では知られもせず行はれもせぬ姿勢・運動・身振り・美容の法則等が澤山有つた事が、推定されます。其の步調は小股で、優美で、巧妙なものであります(ミニユエット云ふ名は小刻みと云ふ事から出ました)。

以上三ツの舞踊には、それ／＼特徴的な歩調があり、又精神的にも相通じた點があります。即ち三種共に、皆比較的緩かな合宜の運動を持つて居り、完全にしこなされた結果として、優雅な美容を備へて居ります。其他各節の終り毎に、低いカーテン即ち叮嚀な揖禮をしたり、又各節に、貴婦人とその相手とが、手をつなぐ度ごとに、腕を肩の邊へ曲線に舉げると云ふやうな優美なこなしがあります。要するに美しい優雅な形式が、全體に通じて居るのであります。

就中ミニユエットは、他の二ツよりずつと進歩した舞踊で、バグワッソ及ガヴオットは二拍子に合はせて踊られますのに、ミニユエットは三部音格に合ふものであります。第五講「リズムの話」に更に、三部音格は、二拍子よりもつと完全に平均したリズムであると申した事に適應して、猶此の舞踊の價値を知る事が出来るのであります。

## 西班牙舞踊

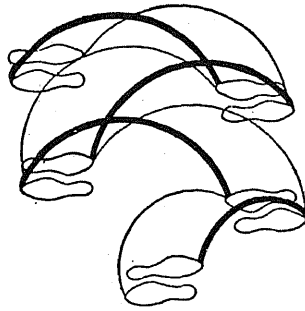
西班牙舞踊は、羅馬帝國時代

から、其の美を以て聞こえて居たのでありましてカデイツの舞姫達は、多くの羅馬人の宴會の花であつたと云はれて居ります。實に西班牙人の舞踊の嗜好は、彼の伊太利人の繪畫に於ける、獨逸人の音樂に於けるが如きものと云つて宜しいのであります。

西班牙の舞踊は、非常に熱烈で、又非常に對照に富んで居ります。たとへば長いしなやかな運動と早い激しいのと、優美な振搖と、急轉と、大きくさつと拂ふ足の引き方と、こまかくさむ歩調と對照が總て斯様云ふ風に現はれて居るのであります。華やかな大風な姿もすれば、華やかさは變らぬ乍ら、投げ遣りの風もすると云ふやうに、運動と姿勢の活潑巧緻は、實に第一流の藝術的所作を成して居ります。

西班牙舞踊中極めて、普通な且特徴的なのは、「バス・ド・バスク」と呼ばれる足の出し方であります。此の圖に示してある通り、第一歩は右のへ方

廣く圓を描く様に差し出し、腕も同じ方に持つて行き、身體は半ばうづくまる様にして、左へ向けて均合をとります。此の形は、左足が右足の前にはこばれて(第二步)重みが右足に戻つて来る(第三步)迄その儘で、次に左足を左へさし出し、兩



腕も同じ方へ出して、身體の右の方へ屈める、といふ様にしてつゞけます。此の步調は、三部音格に合はせて踊るものではあります。かう云ふ風に幾回となく右に左に反復されて居る中には、三部集合を基礎とし乍ら、各三部が強い二部集合の單位となつて居る驚く可き複合リズムが出来て來ます。

西班牙舞踊に共通のもう一つの優美な步調は、「ロン・ド・ジャムブ」又は「浮き輪」といふのであり

ます。これでは、膝を腹部の高さに舉げて、尖り軸の様に立てたまゝ、脚の下部で空中に輪を描くのであります。

西班牙舞踊は多くの西洋の舞踊に比べますと、遙かに胴を餘計に使ひ、臀部を非常に動かします。この東洋的要素は、恐らく西班牙に於けるムール族の影響でありませう。

#### 他の國民舞踊

伊太利のタランテラは、劇的の焔熱と完美との點に於てこそ、幾分西班牙舞踊に譲りますが、其の華麗な姿態と放恣な美容とは、世に聞えて居ります。

東洋風の舞踊に於ては、步調には餘り興味を置かずに、寧ろ他の運動たとへばたをやかな腕の舉げ方振り方、いろいろな胴の曲げ方くねらせ方に、重なる興味があるのであります。

東洋風とも南歐風とも非常にちがふのは、愛蘭のジッグ、英蘭のホルンパイプ、ハイランドのフリング、及北歐一帯の舞踊であります。これら



は優美な曲線的な姿態や、巧妙な腕のよりも、活潑な足取りを特徴として居りまして、その艶美よりも陽氣な方の勝つて居る點は、丁度東洋風の舞踊の反對であります。

敏速に活潑に足は運ばせるもの、北歐的に身體と腕とは硬直なまゝにしておく舞踊者と、南歐的に身體中を働かす人とは、情緒的狀態が確に相異して居ります。北方の舞踊では、人が舞踊に操られるのではなく、舞踊をあやつらふとする氣味が見えます。

北歐に屬する獨逸の民間舞踊の中には、求婚の小話を模したのがあつて、その舞踊の終りには、男が女を引きまはして急速に回轉するのであります。これが近世のワルツの始まりでありました。

### 標題舞踊

標題樂に似て居る點から推して

近來一般に行はれる或一種の舞踊に對して、標題舞踊の名を作る事が出來ます。此種の舞踊は、リズム的な運動に依て、或音樂の曲の含むあらゆる

意味の影を表現する企てでありまして、舞踊者は音樂の高低・強弱・言句等の變を、さまざまな姿態や運動に映じ出します。

最も著名な例としては、佛國のマドレーヌの場合でありまじやう。やはり佛國の學者のフルールノアは、催眠狀態に在つて舞踊した此のマドレーヌに就て、次のやうに書いて居ります——

音樂を奏したり詩を朗詠したりすると、マドレーヌはあらゆる調子をさまざまの姿態や身振り足取りで演じ出す、たとへば高い調子は、彼女に愉快の表情を起させ、低い調子は悲哀の表情を起させる。もし數オクターヴを下から上へ弾き上げると、彼女は兩手を舉げて身體を精一杯延ばす。又其の反對に、上から下へ弾き下げて行くと、ズーツと身を沈めて床の上へ蹲まるか又は平伏する。

かういふのは、或意味から云へば模倣舞踊であります。併し「原始文明に於ける舞踊」で述べ

たやうな模倣舞踊とは違つて、現に舞踊其物が立派な藝術品であり、且つ其の刺戟の根源は、原始藝術のやうに實際生活を模したのでなく、全く音楽家の作者でありますから、最初の立場即ち原始藝術の場合からは、二度の轉移した模倣でありません。其他の有名なる標題舞踊者の實行としては、イサドラ・ダンカン、モード・アレンの如き藝術家が、メンデルスゾーンの春の歌、又はシヨバンの送華進行曲に合はせて踊りますと、音楽と同じ位の美しさを有して、しかも音楽の情緒と一致した何ものかを、喫へられる様な氣持が致します。

併し要するに、音楽は音楽、舞踊は舞踊で、舞踊は根本的に且永久に、音楽とは異つたものであります。音楽から暗示を得る事は可能でもあり、至當でもありますが、併し藝術的舞踊の眞の萌芽は、音楽的動機では無くて、舞踊的動機でなければなりません。

## 姿勢及運動の原則

近世の舞踊に於ける歩

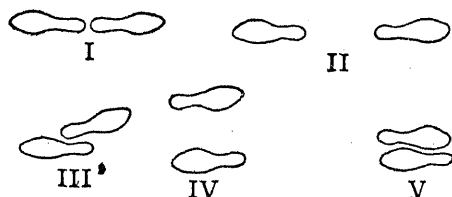
態は、凡て五ツの主な形の中の何れかに基いて居ります。たとへばバレットの舞踊者は、此の圖のIからVまでに示した通り、爪先を外に向けて、さういふ五つの形を固く守らなければなりません。

尤も或國民の舞踊中には、此五種以外の形も用ゐられて、爪先を内へ向けるのもありますが、其れは例外であります。

首と胴との動かし方にも、五ツの主な形があつて、眞直にしておくか、一方へ傾けるか、前へ屈めるか。又は後へ屈めるか、又は側面にめぐらすのであります。

腕の使ひ方は、數限りもなく腕を上手に使ひこなす事が、舞踊中の最難事で、ここで舞踊の巧拙が分かれるのであります。

脚と足を美しい形にする上に缺く可からざる一つの法則としては、足首を地より擧げる時は、必



す爪先を下へ向ける事であります。かうしますと、脚は右の圖の様なギザ／＼な調はぬ線とちがひ、左圖の様に一條の長く續いた線となります。

舞踊者にとつては、對向の原則と平均の原則が、非常に肝要であります。身體は自身に於て實際よ



く均合バランスがとれて居るのみならず、傍から見える様にしなければなりません。そしてこの平均は、身體の或部と或部との對向オウゴウシヨウに依て保たれます。例へば身體を右に曲げる時は、腕も



しくは足は左の方にさし出し、又身體を前に曲げれば首は後へ引きまします。又行進

の時には、右足は左腕と共に前に出、左腕は右足と共に前に出るといふ様に、足と腕とは自然反對になつて動きます。勿論斯う云ふ平均的運動は多くは本能的に行はれますが、併し舞踊家が美術的效果を收め、且水際立つた態度を作るには、意識

的にこれを調和し銑鍊しなければなりません。たとへば飛翔中のマーキュリーの姿勢、及び此の圖

の如きは、その適例であります。此の圖では、右腕と左足とを引いて、左腕と右足とを前に出し、

身體は稍や反り氣味で頭が前に出て居ります。

運動の順序に關する原則としては、先づ胴に起つて、それから四肢に行き渡る様に見えなければ



なりません。腕を動かす

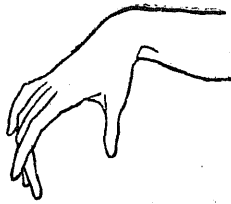
時は、其運動は肩又は腕の上部に始まり、漸次に

肘及腕の下部に及んで、遂に手首と手の關節とに

行く様に見えなければなりません。細長い旗を振りましますと、細い末の方は廣い本の方の波動を受けます。手の場合も同じ法則に従ふ様に見えなければなりません。此處に掲げた圖は、腕を上へ向けて動かす時の正しい手の位置を示して居ります。

又身體は、頭を共に運ぶ様に見えなければな

らないので、例へば揖禮かカーテスイをする時には、頭の運動は胴の運動に従ひ、且それを完成する様に見えるのであります。もし運動が手・足・又は頭から始まつた様に見えますと、胴は引摺られたり、つれて行かれたりする様に見えます。胴に運動の中心がありませんと、身體は決して釣合よく見えないものであります。



此外の法則の命する所によれば、身體を出来るだけしなやかにして置くと云より、寧ろ運動に對する如何に微弱なる衝動に對して

も、直に反應する様にしなければなりません。又運動は普通曲線的にしなければなりません。例へば姿勢を變へる時には、腕と足を離れず、せず、一旦身體の方へ引きよせてから、新しい姿勢に移ると云ふ風に、總てかやうにして平衝の中心といふ事を、絶えず念頭に置かなければなりません。

せん。腕は決して兩脇に眞直に垂らしておいてはならず、休めて居る時は、やゝ外向きの曲線にして下げておくのであります。

以上の法則は、舞踊の形式的技巧の一部分で、これらは藝術的想像が動いて居る人間の形を其の仲介物即ち表出の具として使ふ時に、守らねばならぬ條件に屬するものであります。

# ブラック



仲の好い三人の兄弟

太郎さんはクラブ歯磨

毎朝丁寧に歯も磨きます

次郎さんはクラブ洗粉

毎晩機嫌よく行水します

花子さんはクラブ白粉

毎日綺麗なお化粧します

品の好い

クラブの姉妹

○先生随分おもちやが來ましたね○どこから○これはね東京のフレイベル館から

園長さんが買つて下さつたの○フレイベル館のおもちやはいいのね○先

生々々僕シーソーにのせて頂戴○先生私に此のマ

、ゴト貸して頂戴○先生之は何

です

之はね積木でもつて電車で

も瀛車でも出

來て車がある

からほらこゝろ

がりませう○面白いな

僕に貸して○あたいにも

ね先生先生〰〰〰〰

○僕にシングルベルス○あたいに球投

○先生此の馬は

之は手綱を引くと前に進みますよ\*

\*君二人で競馬やらうおいこりや面白いな  
○さあ皆さん少し静になさい今先生が皆に

貸してあげますから

○子供は可愛いものね

### 幼稚園恩物類

東京 九段 フレイベル館

製造販賣

振替東京一九六四〇  
電話番号町二九〇九

